

---

## 第 2 部 基本構想



# I. 基本理念

## 1 基本理念と将来像

暮らしを支える「衣・食・住・遊・知・休」という分野にわたり豊かさが実感でき、自然や歴史・文化、産業に恵まれた環境で健やかに楽しく安心して住み続けられ、住んでいることに誇りを持てる生活文化都市をめざします。

まちづくりの主役は一人ひとりの市民であることを念頭におき、市民の安全・安心を第一に考え、「健康」「環境」「文化」をキーワードに、市民とともにまちづくりを進めます。

健康：少子高齢社会に対応する福祉・保健・医療の充実を図り、いつまでも安心して暮らしていけるまちづくり

環境：自然と共生し、生活・都市基盤の充実に努め、地球環境にも配慮した、将来にわたり住みよいまちづくり

文化：歴史文化を再認識し、保存、継承、発展させ、新たな文化を創造し、ふるさと意識あふれるまちづくり

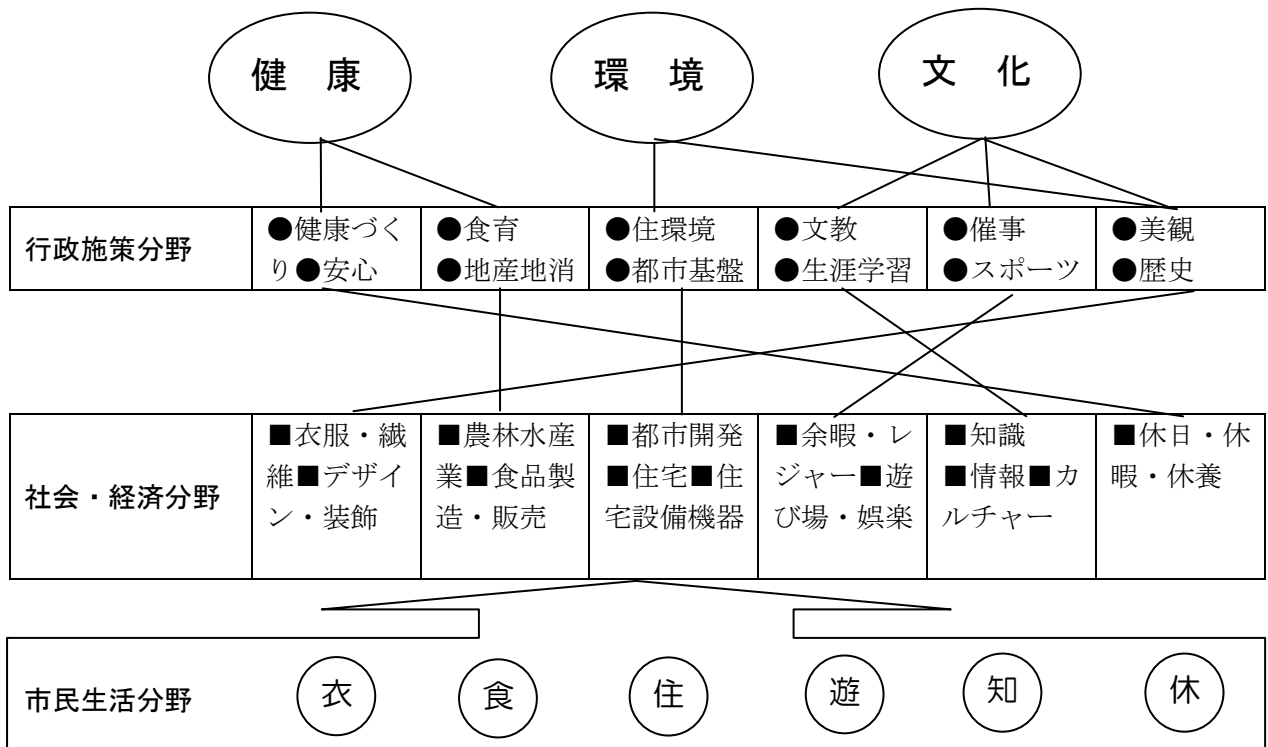
このようなまちづくりを進めるため、めざすべき都市の将来像を次のとおり設定します。

例示

- 「 ~歴史を未来につなぐ、人・文化・産業がきらめく~  
生活文化都市 高砂 」
- 「 ~夢と希望と誇り高まるまち~ 生活文化都市 高砂 」
- 「 ~元気いっぱい、夢いっぱい~ 生活文化都市 高砂 」
- 「 ~こころ豊かな生活重視のまち~ 生活文化都市 高砂 」
- 「 ~個性きらめき、夢かがやくまち~ 生活文化都市 高砂 」

等々 もっと多く掲載し、審議会での意見を聞いて最終的にキャッチフレーズを盛り込む。

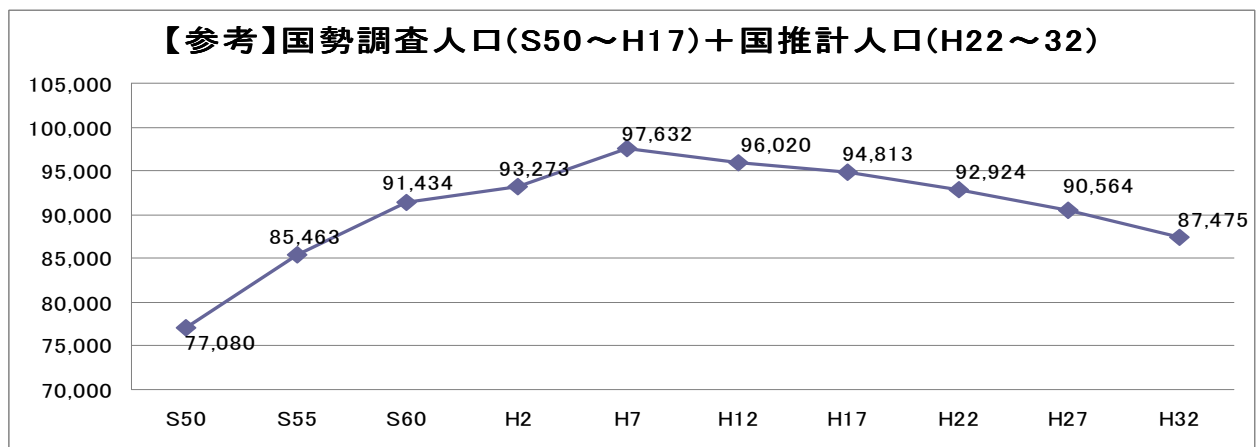
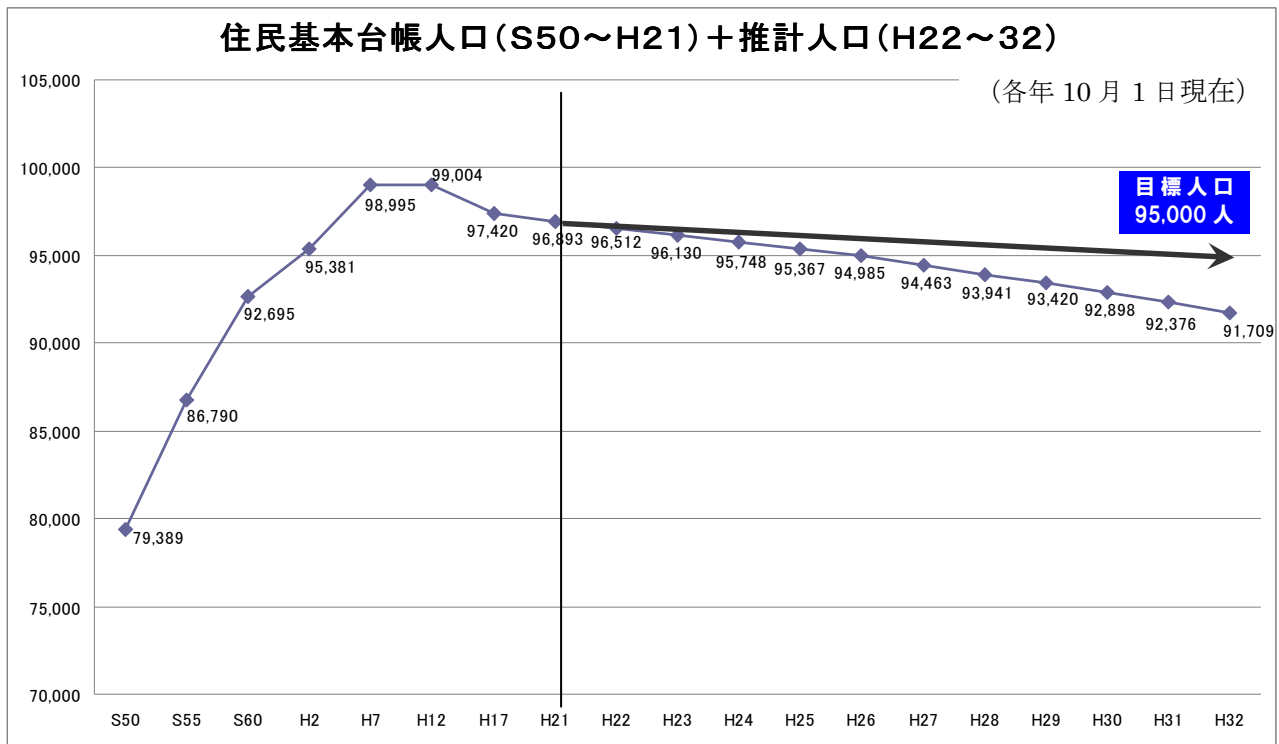
■生活文化を構成する分野



## 2 将来の目標人口

本市の将来の目標人口は、過去の推移を基に算出した推計人口の減少数を抑える施策を展開し、2020年度（平成32年度）における人口を95,000人、世帯数を40,900世帯とします。

住民基本台帳ベース（住民基本台帳人口＋外国人登録人口）



### 3 土地利用

#### 1. 土地利用構成

本市の土地利用の分布は、山陽電鉄、国道2号などの東西軸によって大きく3つに分けられます。山陽電鉄以南の瀬戸内に面する臨海部は、播磨臨海工業地帯の中核をなす工業地帯が広がり、山陽電鉄とJR山陽本線及び国道2号に囲まれた中間部は主に住宅地となっており、国道2号以北は丘陵地の谷間に農地が広がっています。これらの市街地を囲むように市北部の丘陵地に山林が広がっているほか、市の中心部に位置する竜山と、北浜地域の一部にも山林が分布しています。

このような土地利用構成は、今後も継続し、大きく変わることはないと考えられます。

#### 2. 土地利用構想

将来都市像の実現に向けて、市域の自然、文化、歴史などの地域特性や土地の有限性と公共性を踏まえた総合的、計画的な土地利用を推進します。

##### ア) 中心市街地ゾーン

山陽電鉄高砂駅から同伊保駅にかけての周辺地区は、本市の中心市街地として古くから発展してきた地区で、公共施設が集中しているため、本市の中心市街地ゾーンと位置づけます。

##### イ) 住居系市街地ゾーン

現在、主に住宅が立地している地域は、住居系市街地ゾーンと位置づけます。

## ウ) 工業系市街地ゾーン

市南部の臨海部一帯は、工業系市街地ゾーンと位置づけます。

## エ) 農住調和ゾーン

農地がうるおいのある環境形成の貴重な資源であり、保水機能など環境保全機能を有することから、市中央部等に広がる一団の農地を農住調和ゾーンと位置づけます。

## オ) 山林・丘陵地ゾーン

貴重な森林資源、水資源の供給地、動植物の生息地、さらに市民の休養の場である市北部、北東部、中央部に広がる丘陵地を、山林・丘陵地ゾーンと位置づけます。

## カ) 交流拠点

古くから地域の中心的商業地として発展してきた各駅周辺を地域交流拠点、山陽電鉄高砂駅周辺及び新たな商業地が形成された中島交差点周辺は、都市交流拠点と位置づけます。

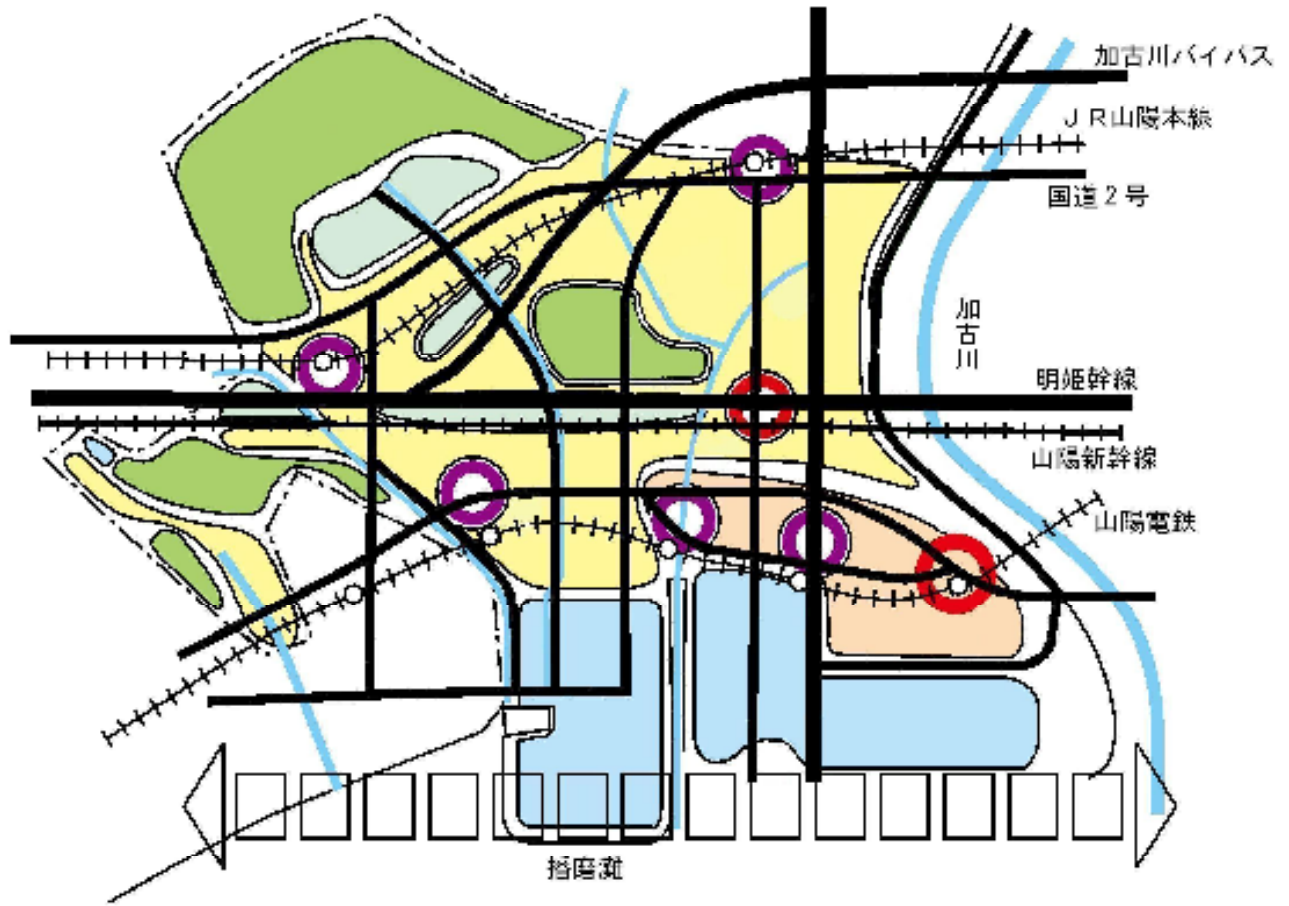
## キ) スポーツ・レクリエーション拠点

ふれあいや憩いとやすらぎの空間として、市ノ池公園、向島公園、加古川河川敷緑地、日笠山公園、あらい浜風公園、総合運動公園等を、スポーツ・レクリエーション拠点と位置づけます。

## ク) 歴史・文化拠点

歴史的建造物、歴史的景観が残る古いまちなみ、神社、仏閣等を、歴史・文化拠点と位置づけます。

【土地利用構想図】



凡 例		
	都市交流拠点	 道路・鉄道
	地域交流拠点	 河川
	住居系市街地ゾーン	
	中心市街地ゾーン	
	工業系市街地ゾーン	
	農住調和ゾーン	
	山林・丘陵地ゾーン	